

# J R 四 国 労 組 ニ ュ ー ス

令和4年3月15日（N o . 2 0 / 1） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／石川 敏也

## 予讃線「橋りょう銘板落下」及び 土讃線「車内放送用マイクからの発火」について

2月22日、予讃線・伊予三芳～伊予桜井駅間桜井架道橋下の道路上に、橋りょう銘板が落下するという事象が発生した。

また、2月25日には、土讃線朝倉駅に停車中の721D列車運転席に設置されている車内放送用マイクから発火する事象が発生した。

本部はこれらの事象に対し、発第69号「予讃線・伊予三芳～伊予桜井駅間『桜井架道橋からの橋りょう銘板落下』について」及び発第70号「土讃線・朝倉駅での『車内放送用マイクからの発火』について」申し入れを行い、会社より以下のとおり回答があった。

【発第69号 予讃線・伊予三芳～伊予桜井駅間「桜井架道橋からの橋りょう銘板落下」について】

1 今回の事象をどのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

今回の事象については、一步間違えれば一般公衆に被害を与える可能性があった重大な事象として認識しています。

橋りょう銘板の落下は過去に事例がありませんが、検査時には銘板や排水樋等の橋りょう付帯設備についても落下の恐れがある箇所を見落とすことがないように、さらなる検査精度の向上に取り組むことが重要であると考えています。

2 橋りょう銘板が落下した原因を明らかにされたい。

銘板を固定していたリベット（止金具）が経年により腐食したことで、銘板を支えきれなくなり落下したと考えています。

3 再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

今回の事象を受け、鋼製の橋りょうであり、かつ橋りょう下部を一般公衆が通行する橋りょうにおいて、銘板を固定するリベットの材質劣化および撤去の必要性を把握するために、目視による精度の高い緊急点検を実施しています。

また、点検の結果、落下の恐れがある箇所については銘板の落下防止措置または撤去を実施します。

# J R 四国労組ニュース

令和4年3月15日（N o 20 / 2 終）発行責任者／大谷 清 編集責任者／石川 敏也

【発第70号 土讃線・朝倉駅での「車内放送用マイクからの発火」について】

1 今回の事象をどのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

今回の事象は、運転席に設置した車内放送用マイクにつながるカールコードの一部が発火し焼損しました。幸いにも、火は自然鎮火してご乗車中のお客様に被害はありませんでしたが、一步間違えば、重大事故に繋がりがねない事象でした。キハ32の車内放送用マイクについては、約1年前にもカールコードを焼損する不具合が発生しており、調査の結果、原因は前回の不具合とは異なりますが、発火という重大な不具合を再び起こしたことを重く受け止めています。

2 車内放送用マイクから発火した原因を明らかにされたい。

車内放送用マイクの内部を確認したところ、カールコードを固定する押さえ金具からカールコードが外れ、押さえ金具とカールコードの芯線が接触していました。これにより芯線が押さえ金具と接触して被覆が破れ、線間短絡を起こしたことでカールコードの焼損に至ったことが分かりました。カールコードが押さえ金具から外れた原因は、長期の使用でカールコードが繰り返し引っ張られたためと推定しています。

3 再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

不具合の発生を受けて、検修関係者に対して車内放送用マイクの発火・焼損を速報するとともに、以下のような緊急点検と対策を実施しています。

① 同じ車内放送用マイクを使用する全ての車両※（78両120台）を対象に、2月27日までにカールコード及び押さえ金具の一斉点検を実施し、カールコードの被覆の痛みなど不具合が確認されたものは予備品への取替、または被覆をビニールテープで保護するなどの応急処置を行いました。なお、応急処置を行った車内放送用マイクについては、3月18日までに修繕を完了する予定です。

※ キハ32、キハ54、キハ40、キハ47、キハ185（観光列車を除く）、キクハ32

② 2021年3月に発生した車内放送用マイクのカールコード焼損対策として、放送NFBの仕様見直しを進めてきました。メーカーによる実証実験とNFB交換に伴う改造検討、図面変更手続き等が終了し、現在、一部の車両の材料準備も完了しています。今回の事象は本対策を実施する前に発生させてしまいましたが、キハ32（21両）については3月8日に全車の取替を完了しました。その他の車種についても速やかに取り替えを実施してまいります。

幸いにも、これらの事象によるお客様や一般公衆への被害はなかったが、一步間違えば重大事故に繋がりがねない事象であった。

J R 四国労組は、安全・安定・安心輸送の確立はすべてに優先し、尊い命を預かる私たちの重大な使命であることを強く訴えとともに、引き続き、会社に対する「安全へのチェック機能」を強化する運動を展開する。

以上